

BCG予防接種について

(BCG vaccine)



結核は、結核菌の感染で起こります。国内の患者はかなり減少しましたが、まだ年間約2万人の発生があり、大人から赤ちゃんへの感染も少なくありません。

赤ちゃんは抵抗力が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

●BCGワクチンについて

BCGは、牛型結核菌を弱毒化した生ワクチンです。接種方法はスタンプ方式で、管針を上腕2カ所に押しつけます。

接種後もそのまま会場で、ワクチン液が自然に乾くのを待ちます。10分ほどかかります。また、乾燥後も1時間ほど直射日光（紫外線）を避けてください。



○接種対象年齢

1歳未満 【標準的な接種期間】生後5か月～8か月未満

●接種後の通常の反応とコッホ現象

◎通常の反応 ⇒接種後10日頃に接種部位にポツポツができ、ウミが出ることがあります。接種後3～4か月頃には治り、小さな傷痕が残るだけになります。これは通常の反応ですので、そのまま清潔を保ってください。

◎コッホ現象 ⇒結核菌に感染しているときは、通常よりも早く、接種部位が赤くなり、一部に小さくウミが出ます。これをコッホ現象といいます。
※コッホ現象かもしれないと思ったら、接種医にご相談ください。

●次の人は、BCG予防接種を受けることができません。

- (1) 明らかに発熱（通常37.5度以上）をしている人
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- (3) 予防接種や外傷等によるケロイドがある人
- (4) その他、接種医が不適当と判断した人。たとえば、
 - ・突発性発疹が治って間もない人（治ってから2週間程度は不可）
 - ・接種部位にステロイド剤を塗っている人
 - ・家族などが感染症にかかっている（可能性がある）人

※1か月以内に感染性疾患に本人や周囲の方が罹患した時などは、予防接種を受けることができない場合がありますのでご相談ください。

◎予防接種による健康被害救済制度

この予防接種による万が一の健康被害発生時には、予防接種法による給付を受けることができます。

異なるワクチンの接種間隔について

令和2年10月1日以降の接種より、「異なる種類の注射生ワクチン（BCG・MR・水痘など）どうしの接種間隔は27日以上の間隔をあけること」以外の制限がなくなりました。

BCGを接種した後、MRや水痘を接種する場合は、27日以上の間隔をあける必要があります。ただし、同一の種類のワクチンの接種間隔（例：水痘ワクチンの1回目と2回目は3か月以上あける）については変わりありませんので、ご注意ください。

2歳ごろまでの接種スケジュール（例）

	ロタウイルス	肺炎球菌	B型肝炎	五種混合	B C G	MR	水痘
接種回数	2または3回	4回	3回	4回	1回	2回	2回
2カ月	①	①	①	①			
3カ月	②	②	②	②			
4カ月	(③)	③		③			
5カ月					↑		
6カ月					①		
7カ月			③		↓		
8カ月							
...							
11カ月							
12カ月		↑				①	↑
13カ月		④					①
14カ月		↓					↓
15カ月							
16カ月				↑			
17カ月				④			
...				↓			②
22カ月							
備考	ワクチンの種類によって接種回数が異なる	開始する年齢によって接種回数が異なる	定期接種は、1歳誕生日の前日まで		定期接種は、1歳誕生日の前日まで	2回目(2期)は、年長児のとき	2回目は、1回目接種後3か月以上あける

この予防接種は防衛省からの交付金を使って実施しています。

2026 ver